

出張報告書

令和元年 11月20日

市議会議長 米田 貴志 様

会 派 名 きしわだ未来

代表者氏名 反甫 旭

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 全国都市問題会議 参加のため
- 2 出張先 鹿児島県霧島市
- 3 出張期間 令和元年 11月6日～令和元年 11月8日
- 4 出張者氏名 反甫 旭
- 5 てん末報告 別紙の通り

【プログラム】

① 基調講演 「鹿児島県の歴史から学ぶ防災の知恵」

原口 泉（志学館大学人間関係学部教授）

② 主報告 「霧島市の防災の取組―火山防災―」

中重 真一（鹿児島県霧島市長）

③ 一般報告 「災害とコミュニティ～地域から地域防災力強化への答えを出すために～」

田中 重好（尚絅学院大学人文社会学群長）

「平成 30 年 7 月豪雨災害における広島市の対応と取組について」

松井 一實（広島県広島市長）

「火山災害と防災」

中田 節也（防災科学技術研究所火山研究センター長）

④ パネルディスカッション 「防災とコミュニティ」

コーディネーター：田中 正人（追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授）

パネリスト：大矢根 淳（専修大学人間科学部教授）

磯打 千雅子（香川大学地域強靱化研究センター特命准教授）

持留 憲治（霧島市国分野口地区自治公民館長）

豊岡 武士（静岡県三島市長）

神出 政巳（和歌山県海南市長）

【考察】

第 81 回全国都市問題会議が「防災とコミュニティ」というテーマで鹿児島県霧島市にある国分体育館において開催された。鹿児島県での開催ということで基調講演では火山の噴火に関する防災面で説明もあった。そうした他市の事例を見ても、防災面で共通するところは予測以上の被害が起こりうるということである。その事態にも対応すべく、私たちは普段から対策を講じないといけないことをあらためて思い知らされた。

現在、岸和田市では庁舎建設が大きな課題となっている。庁舎の持つべき機能の中でも防災性を兼ね備えることは重要である。しかし、震度などの想定をどうするかは非常に難しい。行政の役割として市民のいのちを守ることは最重要のことと言っていい。過去の事例を学び、そのことを頭に入れて、本市の庁舎などの公共施設の建設は行っていきたい。

また近年、コミュニティの希薄化が全国的な課題であるとのことであった。鹿児島県などでも町会加入者は減少しているようで本市でも例外ではない。ただ、ハード面などは広い範囲で整備されてきたが、防災はすべて行政任せというわけにいかない。やはり、地域の住民一人ひとりが当事者意識をもって、普段から備えておかなければならない。そのためにも、防災マップづくりといった事業を行い、自分の住んでいる地域のことを知ることが重要である。そうしたことが必ず、災害時に役立つことになるだろう。

以上